ポローニア
paulownia

附属中学校 技術科：「切り出し小刀」3年総合(左)、「PET板を使用したLEDあんどん」2年(右上)、「スマホスタンド」1年(右下)

目次

教育長挨拶
巻頭言「自律的な活動の時代」◆茂呂雄二……2
共生社会を目指す芸術・文化交流の集いの開催 ◆伊藤僚幸……2
第9回 高校生国際ESDシンポジウム・The 2nd SDGs Global Engagement Conference Online version を開催 ◆建元喜寿……3
つながる学び –遠隔合同授業の実践– ◆田村裕子……3
「出来ない」から見つかったもの ◆今西智津子……4
新しい様式の「大塚祭」にチャレンジ ◆佐藤知洋……4
コロナ禍でも実施し続けた本校の自治活動 ◆栖原 昂……4
駒場の探求 –教科の枠にとらわれない授業– 法と交渉とフィールドワーク ◆小貫 篤……5
感染症対策のもとで実施したクリスマス会 ◆横山知弘……5
令和2年度 教育実習が無事に終了しました ◆徳竹忠司……6
史上初の第117回「辰巳」遠泳大会 ◆桂 聖……6
きらきらコンサート ～コロナ禍での新しい形～ ◆中川知香……7
コロナ禍の運動会 ◆浅野慎子……7
朝永振一郎記念第15回「科学の芽」賞 表彰式・発表会オンライン開催 ◆濱本悟志……8

VOL.50 記念

筑波大学 University of Tsukuba　附属学校教育局
http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp

巻頭言

自律的な活動の時代

附属学校教育局 教育長 茂呂雄二

新型コロナウィルス感染症のために、日々の学習補償、メンタルな面での児童・生徒支援、校内行事の再計画、入試対策などで、コロナ以前とは全く変わった学校運営と授業実践にご苦労をおかけしています。私自身も、副学長としての仕事もそうですが、学会活動や非営利こども発達支援の実践でも、「かつての」日常とは一変した「新しい」生活のあり方に大きな戸惑いを感じています。

この生活の激変から、何を学ぶべきなのでしょうか?

新しい生活の中で、さまざまな決定を迫られています。例えばワクチンの接種です。接種を躊躇う声もあります。新しい科学技術への不安もあれば、リスクは低いとのエビデンスを示されても万が一の場合も考えてしまいます。一方で、リスクはあれ、多くの人の接種によって確実に状況を変えることができるとの言説も説得的です。私たちは、さまざまな情報と考え方を取捨選択して、自ら最終決断を下すという自律を求められています。日本人の特徴は不破雷同や横並びだと言われます。これを突破して自律的に考え行動することを学ぶ大きな機会とする。新しい生活の意味は、そこにあるように思います。

共生社会を目指す芸術・文化交流の集いの開催

附属聴覚特別支援学校長 伊藤僚幸

第1部 穴澤氏と永山教諭の共演

令和2年12月13日(日)、筑波大学附属学校教育局は、「共生社会を目指す芸術・文化交流の集い」を開催しました。本会は、新型コロナウイル感染予防の観点から、オンラインでの開催としました。参加者は、筑波大学附属学校全11校の児童生徒と保護者約300人、配信は、筑波大学附属視覚特別支援学校で行いました。

第1部は、附属視覚特別支援学校高等部専攻科音楽科の卒業生で、現在はヴァイオリン奏者であり作曲家である穴澤雄介氏を迎え講演会を開催しました。穴澤氏は、生きていく上で大切なことは、与えられた環境や時間の中で、自らの目標や意識を如何に前向きにできるかが重要になってくると熱く述べていました。講演の最後には、附属視覚特別支援学校音楽科永山香織教諭との共演もありました。視聴者に深い感動を与えた講演会になりました。

第2部は、附属学校の児童生徒がリレー形式で発表する「プレゼンテーションリレー」を実施。共生社会をテーマにした、ダンスや附属学校間の交流の様子を紹介した動画などが発表されました。参加者からは、各学校間で交流を持つことの素晴らしさを称賛した感想など、「共に生きる」ことの大切さに関した意見が多数寄せられました。普通附属学校6校と特別支援学校5校を有する筑波大学独自の取組として、また、オンラインを活用した企画として、新たな可能性を見出したものとなりました。

第2部 プレゼンテーションリレー(附属高等学校生徒の紙人形劇)

感想を述べる茂呂教育長と司会進行の附属高等学校生

第9回 高校生国際ESDシンポジウム・The 2nd SDGs Global Engagement Conference Online version を開催

附属坂戸高等学校 主幹教諭 建元喜寿

本年度も、2020年10月31日(土)に、第9回目となった「高校生国際ESDシンポジウム」を開催しました。コロナ禍での国際シンポジウムで、はじめてオンラインでの開催となりました。本大会は、昨年度から開始された文部科学省WWL事業の一環としての国際会議でもあり、「The 2nd SDGs Global Engagement Conference Online version」として、これまで本シンポジウムに参加経験のある国際連携協定校のインドネシア、タイ、フィリピンの高等学校から参加があり、また、東南アジア教育大臣機構（SEAMEO）のネットワークから新たにインドネシア教育大学附属高等学校、連携企業のネットワークからネパール、そして本校独自のネットワークからオーストラリアからの参加があり、オンラインの強みを生かし、結果的には海外からは昨年を上回る参加校数になりました。

国内からも、本年度から新たにWWL拠点校に採択された愛媛大学附属高等学校をはじめ、SGH時代から連携のある高等学校や、筑波大学の附属学校群として、附属高等学校、附属視覚特別支援学校からも参加があり、国内外のネットワークが活かされた大会となりました。

来年度は、第10回の記念大会となります。まだ、先の見通せない状況ですが、参加者の皆様方と、これまでの10年を振り返るとともに、これからのより良い10年を共創できるシンポジウムにできればと思います。

The 2nd SDGs Global Engagement Conference Online version

つながる学び –遠隔合同授業の実践–

附属桐が丘特別支援学校 田村裕子

全国の肢体不自由特別支援学校の教室と、当校の教室とをつないだ遠隔合同授業の実践について紹介します。全国に約350校ある肢体不自由特別支援学校では、ごく少人数で授業を行っている学校が少なくありません。中には、教員1名に対し、児童生徒1名ということもあります。

遠隔合同授業を通して、児童生徒が相手に伝えようという表現意欲を高めたり、いろいろな意見に触れることで学びを深めたりすることを目的とするとともに、遠隔合同授業を契機とした教員側の授業改善に取り組んでいます。今年度、12月末現在までに、全国9校の小学部・中学部・高等部と様々な学部・学年で各教科や自立活動の遠隔合同授業を行いました。各授業は、複数回の実施もあり、回を重ねて学習が深まる様子が見られています。一方で、課題も見えてきており、こうした課題にも目を向け、より一層の授業改善を図っていくことで、子供たちの学びを支えていきたいと思います。

■中学部2年社会地理的分野「関東地方」

青森県と愛知県の特別支援学校の生徒と「東京は住みやすい都市か、住みにくい都市か」をテーマにディベートを行いました。自分の主張をどのように相手校の生徒に伝えるか、わかりやすい資料はどんな資料か、伝えたい気持ちが学習を後押ししました。

■小学部1年算数「かたちづくり」

画面越しの友達にも徐々に教室の中に一緒にいるような感じで「できたよ」と報告し合ったり、「クイズだよ」と問題を出したりしていました。

また、遠隔合同授業を支援する「遠隔合同授業マッチングサイト」を開設し、本格的に動き出しました。マッチングサイトは、遠隔合同授業を行ってみたいという学校同士をつなぐことを目的に開発されました。希望する授業内容と連絡先を登録しあうことによって、相手先を見つけることを支援し、授業の活性化を図ります。たくさんの授業が登録され、全国の学校同士、教室同士がつながっていくことを期待しています。

マッチングサイト（登録制です）
https://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp/about_enkaku/

「出来ない」から見つかったもの

附属高等学校 保健体育科教諭 今西智津子

開会式も学年ごとに実施

附属高校のスポーツ大会は、例年1日半をかけてクラス対抗球技大会を行い、残り半日で全校イベント競技を行っています。何十年も続いてきたこの伝統行事は、各クラス、そして学年の垣根を超えた団結が生まれ、大変な盛り上がりを見せます。

しかし、今年は新型コロナウィルス感染症の影響を大きく受けることになりました。多くのイベントが中止になるなか、「出来ることをやろう」と生徒達がぎりぎりまで検討を重ね、学年ごとの分散実施、そして身体接触の少ない種目への変更という形で実施することが出来ました。通常通りに出来ないことへの残念な気持ちがある一方、新しいことに挑戦することで伝統の改良部分も見つかりました。「出来ない」から見つかった素敵な学びを活かし、来年度はより素晴らしい行事になることが期待できます。

3年生はさすがのレベル

新しい様式の「大塚祭」にチャレンジ

附属大塚特別支援学校 小学部主事 佐藤知洋

今年の大塚祭はいつもとちょっと違います。小学部みんなで一緒に発表することはできませんでしたが、それぞれのクラスのみんなが頑張っていることをたくさん見ることができます。しかも！いつものように1日で終わるのではなくホームページや動画でいつでも何回でも見ることができます！おとくです！…(以下略)

小学部高学年のT教諭が子どもたちへ宛てたメッセージです。本校で最も盛り上がる全校行事の大塚祭も、今年度は安全に楽しく実施できるようwebを中心とした開催となりました。小学部では学級ごとに、劇あそび・即興劇・宿泊学習報告と合奏などを発表しました。3学期もzoom全校朝会で映像を毎回紹介しあうなど、新しくて多様な楽しみ方のできる大塚祭となっています。

コロナ禍でも実施し続けた本校の自治活動

生徒部 2020年度委員長陣
担当教員 栖原 昂

一斉休校により登校が叶わない時期から、本校の委員長陣（=生徒会委員長・副委員長）は全校生徒のつながりを保とうと、広報誌発行や授業支援クラウド上での全校参加型の企画を行い、多くの生徒が参加しました。また、卒業生歓送行事や新入生歓迎行事も、冊子の作成やメッセージビデオの放映といった工夫を重ねて実施しました。学校が再開したのちも、選挙活動や生徒総会等は映像を教室にライブ配信する形で実施しました。

リーダーたちを中心に、全校生徒が一堂に会することができなくても、「できることを考え続ける」という姿勢で駆け抜けてきた2020年でした。今思えば、悩み、工夫しなければいけない状況に立たされたことで、生徒は例年以上に「自治」を体現していたように思います。

駒場の探求
–教科の枠にとらわれない授業–
法と交渉とフィールドワーク

附属駒場中・高等学校 教諭 **小貫 篤**

本校では、中学3年生で教員の研究や専門性に合わせた講座が開講され、生徒が自由に選択するテーマ学習が行われる。私の今年度のテーマは「法と社会」であった。内容は、個人研究、交渉研究、フィールドワークの3つである。今年はそれに加えて、民法学者によるセミナーがオンラインで5日間開催された。11名の生徒に対して、日本を代表する民法の先生が1日4時間以上講義・議論をしてくれた。

検察庁での模擬取り調べ

「個人研究」は、各自の関心に基づくテーマについて調査してレジュメを作り議論がなされた。生徒が調査・研究した内容は、「創作物における児童ポルノを規制の対象に含めるべきか」、「eスポーツ大会を営業として開催する場合に賞金を提供する事を認めるべきか」、「司法取引を法的に認めるべきか」、「刑法第39条は妥当であるか」などである。オンラインでの実施となったが、活発な議論が行われた。

「交渉研究」は、毎年開催されている中学高校対抗交渉コンペティションへの参加がメインとなった。交渉コンペティションは、1チーム5人で国際私法にかかわるテーマについて交渉を行い、交渉のうまさを競う大会である。ディベートとは違い、互いの利害を考慮してともに利益を得る方法を提案できるかが勝負となる。大会は3月に行われるため本稿執筆時点で結果はわからないが、よい結果を期待している。

「フィールドワーク」は、最高裁判所、参議院、法務省、検察庁に見学に行き、話を伺った。最高裁判所では、現役の最高裁判事2名と直接対話することができた。法務省や検察庁では、現役の検事らから様々な話を伺い、充実した内容となった。

最高裁判事との対話

感染症対策のもとで実施したクリスマス会

附属聴覚特別支援学校 寮務主任 **横山知弘**

イルミネーション点灯

12月17日、寄宿舎玄関前のイルミネーションの点灯式を行いました。寄宿舎玄関前の広場を両手間隔に広がった舎生がぐるりと囲みました。その状態で水の入ったカップを舎生全員に持ってもらいました。これは下からスマホのライト機能で照らすことでできあがる即席ランタンです。順番に灯される光景は何とも幻想的でした。「コロナに負けない心の輪」を表現したすべてのランタンが灯った後、イルミネーションが一斉に点灯され、大きな歓声が上がりました。このイルミネーションのライトアップは来年2月まで続ける予定です。

12月18日、寄宿舎にて換気・消毒・間隔の確保・フェイスシールドやマスクの着用など、徹底した感染症対策のもとクリスマス会が開催されました。会に先立ち、日ごろから美味しい食事を提供してくださっている調理員の皆さんへ感謝を込めて、舎生からお花を贈りました。役員が中心に準備した余興のクイズやプレゼント交換を行い、最後にはサンタとトナカイからお菓子のプレゼントをもらいました。終始盛り上がり、会場はとても楽しい雰囲気に包まれました。

プレゼント交換

令和2年度 教育実習が無事に終了しました

理療科教員養成施設 徳竹忠司

附属視覚での実技授業の風景

新型コロナウイルスの感染拡大の防止のために、慎重な行動が日常生活にも求められている社会情勢の中で、令和2年度の教育実習のために、理療科教員養成施設学生を受け入れてくださりました附属視覚特別支援学校に、心より感謝申し上げます。

実習生達も緊張感をもち、日々の実習と体調管理を丁寧に行った生活を送った日々であったことと推察しております。

理療の教育には、対面での実技実習が不可欠であります。身体に触れると言うことは、それなりの距離感が必要となることから、座学に比べて手指消毒・飛沫を抑える発声には慎重な方法が求められていたことと思います。

教育実習の最終日には、研究授業と合評会が行われます。例年は施設教員と1学年が出席をしておりましたが、今回は密を避けるために、養成施設からは教員2名のみの参加となり、残りの教員と1学年は文京校舎にて、附属視覚からの配信動画を視聴すると言う形式をとりました。この配信作業につきましても附属視覚の先生方に多大なお手数をおかけ致しました。

文京校舎から研究授業・合評会を視聴した1学年からは臨場感のある映像や音声であったとの感想が聞かれました。

新しい生活様式の中で、様々な変化が教育現場にも発生してくることは明白であります。視覚障害を有する学生が不利益とならない方策を日々検討する必要があると考えます。

合評会の席での研究授業を行った2名の学生

実技授業の配信画像を文京校舎で視聴する1学年

史上初の第117回「辰巳」遠泳大会

附属小学校 教諭 桂 聖

例年、6年生「3泊4日の富浦合宿」では、2kmの遠泳を行っている。子どもたちは、その完泳のために、1年生のころからずっと練習を積み重ねてきていた。だが、2020年5月、新型コロナの影響によって、「運動会」「清里合宿」とともに「富浦合宿」の中止も伝えることになった。子どもたちは悲鳴を上げた。涙を流す子もいた。

時が経ち、8月上旬には、コロナの感染状況やその対策が明らかになってきた。教職員の間では、6年生だけでも「学校のプール」で泳がせようという声が広がってきた。また、都内で泳げるプールを探す中で、「辰巳」で泳げるかもしれないという情報を得た。「辰巳」とは、スイマーの聖地「東京辰巳国際水泳場」である。その後、関係機関と調整をした結果、なんと「辰巳」で遠泳大会を行えることになった。

2020年9月24日、第117回遠泳大会が史上初の「辰巳」で開催された。子どもたちは、全員、500メートルの遠泳に挑戦した。学校のプールで練習したのは、体育の授業で5時間程度。練習は足りていない。嫌な子もいたと思う。それでも全員が挑戦した。途中で苦しくて立った子もいた。それでも止めずに最後まで泳ぎ切った。やはり本校の子どもたちはたくましい。子どもたちを心から誇りに思う。

大会の終盤は、サプライズゲストの登場。オリンピアン「伊藤華英さん」が模範泳法を見せてくださった。伊藤さんとK教諭・S教諭の対決も大いに盛り上がった。

子どもたちの夢を実現するために、多くの方々のご高配をいただいた。記して感謝したい。

きらきらコンサート ～コロナ禍での新しい形～

附属久里浜特別支援学校 教諭
中川知香

幼稚部　動画鑑賞の様子

本校では、例年、音楽家の谷川賢作さんと安井希久子さんをお招きして「きらきらコンサート」を実施しています。全校で集まって、プロの音楽家の演奏に触れたり、楽しんだりすることをねらいとしています。

しかし、今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、全校で集まることは難しい状況でした。そのような中でも、子供たちは音楽家の演奏を楽しむことができるこのコンサートをとても楽しみにしていましたので、どのような形なら開催できるのか教職員で検討を重ねました。そして、オンライン会議のシステムを使ったり、事前に撮影した動画を観たりする形で「きらきらコンサート」を実施することにしました。

当日は、始めに各クラスでオンライン会議システムをつなぎ、谷川さんにも参加していただいて開会式を行いました。子供たちは画面に映る谷川さんに手を振ったり話し掛けたりして、笑顔で楽しく関わることができました。その後、事前に谷川さんや安井さんが撮影・編集してくださった映像を各クラスで観ました。プロの演奏に、体を揺らして楽しんだり、じっと画面を見つめたり、楽器の名前を言ったり、一緒に手遊びをしたりとそれぞれの感覚で演奏を楽しみました。子供たちの笑顔や楽しんでいる様子を見て、「きらきらコンサート」が行えて本当に良かったなと思いました。

まだまだ感染症が心配されますが、引き続き感染症拡大防止の対策をしながら、子供たちの活動がより豊かになるように、いろいろな方法を考え、実践していきたいと思います。

幼稚部　動画に合わせて楽器を鳴らす様子

小学部　画面に近づいて動画を見る様子

直線走 ～ゴールテープをめざして～

コロナ禍の運動会

附属視覚特別支援学校 小学部主事 浅野慎子

今年度は、多くの行事が中止となる中で、6月の学校再開時から10月の運動会について議論を始めました。私たちは、最も大きな行事であり、子どもたちが大きく成長する運動会を何とか実施しようと決め、例年の何倍もの時間をかけて議論と準備を重ねました。

10種目以上行っていた競技を半分以下に減らし、午前中で終了することにしました。競技では、道具を共有しないようにし、児童同士の接近や接触をなくしました。また、声を出す場面を最低限にする、待ち時間はマスクを着けて距離を取る、消毒を徹底する、参観する保護者は各家庭1名ずつにするなどの対策を取りました。プログラムの中でも、特にコロナ禍ならではの工夫や苦労のあった種目についてご紹介します。

応援合戦は例年児童が話し合って内容を作り上げますが、今年度は大勢が集まれないため、5、6年生が中心になって考案しました。赤白両チームが運動場に並んで応援することをやめ、別々に入場しました。声を出すのは5、6年生だけで、工夫をこらした寸劇と掛け合いで盛り上げてくれました。それ以外の学年の児童は、ペットボトルのマラカスを思い切り鳴らして、元気いっぱいに応援しました。

直線走は、これまでは赤白が同時に走って速さを競っていましたが、今回は学年別に3グループに分かれて走り、タイムを計測し、勝敗を決めました。例年とは全く違うスタイルで実施するため、直線走の担当グループは何度も集まり、運動場で確かめては内容を練り直し、ようやく本番にこぎつけました。子どもたちは「練習よりいい記録を出すぞ！」という気持ちで走りました。

これまでとは異なる運動会となりましたが、子どもたちは練習の段階からコロナ対策の必要性をきちんと理解して、元気に楽しく参加し、「運動会ができてよかった。」という達成感を味わうことができました。

応援合戦 ～心をひとつに～

朝永振一郎記念第15回「科学の芽」賞 表彰式・発表会オンライン開催(2020.12.19)

附属学校教育局 次長　濱本悟志

12月19日(土)、朝永振一郎記念第15回「科学の芽」賞の表彰式・発表会をオンラインで開催しました。

「科学の芽」賞は、筑波大学にゆかりのあるノーベル物理学賞受賞者の朝永振一郎博士の功績を称え、それを後続の若い世代に伝えていくとともに、小・中・高校生を対象に自然や科学への関心と芽を育てることを目的としたコンクールです。

今回は世界的な新型コロナウィルスの感染拡大の中、国内の学校220校及び海外3か国（中国、韓国、ハンガリー）4校の日本人学校やインターナショナルスクールから小・中・高校生部門合わせて2,116件の応募がありました。その中から小学生部門11件、中学生部門7件、高校生部門2件の合計20件の作品を極めて優秀と認め、「科学の芽」賞を授与しました。

表彰式・発表会には、受賞者27名、本学からは永田恭介学長をはじめ清水諭副学長、木越英夫副学長、茂呂雄二副学長などが出席し、総勢で40名程の出席者となりました。

表彰式は、「科学の芽」賞実行委員会副委員長である濱本悟志附属学校教育局次長の開会の挨拶で始まり、全受賞者の呼名と作品名の紹介の後に、永田学長からの表彰状の読み上げと祝辞がありました。続いて、部門毎に受賞者の発表会と審査に携わった附属学校教員及び副学長による作品の講評、学長による総評が行われました。発表会では、受賞者達が画面上に研究の概要を投影しながらその成果を報告したり、司会者からの質問に身振り手振りを交えて受け答えをしていました。

最後に「科学の芽」賞実行委員会委員長の茂呂雄二副学長から閉会のことばがあり、その後、名残惜しそうに手を振りながら、約2時間のオンライン表彰式・発表会が無事に終了しました。

ご応募いただいた皆様、関係者各位に深く感謝を申し上げますとともに、来年度の「科学の芽」賞もどうぞよろしくお願いいたします。

●広報誌名「ポローニア」の由来

「ポローニア」とは、「桐」の属名であり、Paulowniaと綴る。本誌を「ポローニア」と名づけたのも、筑波大学の紋章に「五三の桐」が使われていることに拠る。しかし、ポローニアを付与した理由が他にも存在する。近代西洋医学を日本に伝えたシーボルトは、日本において、桐が瑞祥の象徴と見なされ、皇室をはじめ高貴な家柄の紋所として用いられていることを知り、Paulownia（後援者のオランダのパウロウナ公妃に因む）こそが植物の桐のイメージを表現していると考え、桐の学名（Paulownia imperialis）に定め、パウロウナ公妃に献呈した。今後いつまでも、多数の読者に愛され続けることを願い、ポローニアの故事来歴やエピソードに基づき、ポローニアと命名した。

ポローニア
paulownia
vol.50

発行日……令和3(2021)年 2月28日
発行者……附属学校教育局教育長 茂呂雄二
発行所……筑波大学附属学校教育局 広報誌
広報戦略推進委員会
〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1　電話 03-3942-6800
デザイン……スピーチ・バルーン
印　刷……広研印刷　使用紙：U-ltimax［日本製紙］